Z会中学受験コース6年生の国語では

応用力をさらに磨き、入試本番を見据えた実戦力を養います。

6年生では、2月から7月までを「カリキュラム履修期」、8月から1月を「合格力完成期」とし、入試へ向けた実戦力の総仕上げを行います。入試本番でどのような出題にも対応できるよう、多方面のジャンルの文章や、さまざまな形式の問題を出題。過去の入試問題にも数多く取り組み、入試で求められる読解力、過不足のない解答を作成できる力を完成させます。

学習例：◎中学入試を突破できる読解力・表現力を完成させる

要点

●入試頻出のテーマや、設問形式・各種の文章に特徴的な解き方を確認

「カリキュラム履修期」の要点では、前半は入試頻出のテーマを取り上げます。「知っているテーマ」「考えたことがあるテーマ」を増やすことで、入試本番でも落ち着いて問題に向き合えるようになります。「合格力完成期」では記述問題や選択問題など、設問形式ごとの解き方や、文章の種類による解き方のポイントを確認していきます。

読解のテーマ

説明文・論説文(1)――人間と自然のかかわり

みんなは、説明文・論説文は難しいと感じてはいませんか。でも実は、説明文・論説文の内容は、身の回りのできごとに関係があることが多いのです。それらは未来を担うみんなに伝えたいこと・考えてほしいこと、また、現代社会を生きている人間の一人として、目をそらしてはいけないことばかりです。

例えば、「資源の循環」などと書いてあると身がまえてしまうかもしれませんが、これはペットボトルをリサイクルするとか、牛乳パックをスーパーの回収箱に持っていくことなどに通じています。論説文に登場するのは、実は毎日の生活に関連することなのです。ちょっと見方を変えて、自分の身近な話題であると思いながら文章を読んでみませんか。

さらに、話題についての知識があればあるほど、その内容はおもしろいと感じるはずです。おもしろいと思いながら読む文章の内容はよくわかるでしょう。だから、読解のためには興味をもつことが不可欠なのです。そのための知識を少しずつ身につけていきたいですね。

＋

授業ノート

●入試頻出のテーマや解き方のポイントを穴埋め形式で最終確認

「カリキュラム履修期」の授業ノートでは、前半はさまざまな論点について、自分の頭で考え、実際に手を動かして書きこむことで、入試頻出のテーマをしっかり咀嚼することができます。「合格力完成期」ではさまざまな設問形式や各種の文章の読解のポイントを書きこむことで、確実に得点するための解法をしっかり整理して最終確認することができます。

読解のテーマ

説明文・論説文(1)――人間と自然のかかわり

●人間と自然のかかわり●●

自然に関係するテーマは多く出題されています。植物学や、動物の行動、昆虫の観察など話題はさまざまですが、特に注目したいのが「＿＿＿＿」に関する内容です。環境問題に大きな関心が向けられている現代、私たち一人一人が自然とどのように向き合っていくのかを考えることが求められているとも言えますね。

●取り上げられるテーマについて知っておこう●●

(1)里山

人間の住む場所に接した山のことを里山と言います。里山には継続的に人間の手が入り、主に木材やきのこ・木の実などの食料の供給源として利用されてきました。今日では、メダカなど都会では見られなくなった生き物にふれて、＿＿＿＿の仕組みや生命について学ぶことができる場所として、貴重な存在と考えられています。

【よく論じられる内容】

・大規模な宅地化による里山の消滅。
← 景観の見直しや、＿＿＿＿とのふれあいの場として保全する試み、そのためのボランティア活動のあり方など。

・手入れをしなくなったことや、乱伐などによる植生の乱れ。
← ＿＿＿＿とのかかわり方・植生の仕組みの解説

練習問題

●どんな形式の問題でも解ける力をつける

入試を見据え、記述式・選択式・書き抜きなどの諸形式の問題を、標準レベルから発展レベルまでバランスよく出題。どんな問題でも自信をもって解けるよう練習を重ねます。

問四 ――②、「筆者は、氾濫浸水跡を市内各地の電柱などに標識で示すことを提案した」とありますが、筆者がこのような提案を行ったのは何のためだと考えられますか。具体的に書きなさい。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問五 ――③、「災害文化」とはどのようなものですか。適切なものを次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 災害の予測と十分な備えから生まれる、被害を最小限にとどめられるという自信。
イ 災害の可能性をふまえて危険を周知しようという、行政の防災への積極的姿勢。
ウ 災害の経験の積み重ねを経て、地域ごとに形作られる、災害に対応した暮らし方。
エ 災害を未然に防ぐための前提となる、住民の持っている土地への愛着そのもの。

●記述問題を攻略する力をつける

難関中学の入試を突破するには、記述問題を攻略する力が必須です。文章の要約など長い記述が必要な問題や、自分の言葉でまとめ直し、短い言葉で確実に答える必要のある問題で、高度な記述力を養えます。

＋

答えと考え方

●論理的な思考を養う解説

難度の高い問題でも、解答にいたる道筋がしっかりと理解できるよう「答えと考え方」で詳しく解説しています。解答の根拠は何か、どのように考えていけばよいかを丁寧に示した解説を読み、論理的な思考を身につけます。

市民に対して地域の防災上の問題点を知らせ、危険を周知するため。

考え方

――②は、一九七四年の七夕水害の際の筆者の提案ですが、この段落から筆者の意図ははっきりとわかりません。

そこで、続く63行目からの段落を読みましょう。この段落は、それから約四〇年後の事例ですが、筆者の問題意識と行政の認識がずれたままであることが指摘されています。筆者は、行政が行うべき防災の実務について、次のように考えています。

区民、来客に対して行政はいかに地盤沈下に苦しんでいるかを知らせ、危険を周知するのは、行政の義務である。（68～69行目）

筆者は、行政が災害の危険性について進んで市民に知らせるべきだと考えているのですね。この部分をもとに、――②の事例に合わせて表現を整えましょう。「市民に対し、」「地域の防災上の問題点を知らせ」「危険を周知する」といった内容が書けるとよいでしょう。

●記述問題の採点基準をつかむ

すべての記述問題に「丸つけの仕方」をご用意。解答に必要な要素を分解して示します。中学入試では1点・2点の差が合否の分かれ目になります。ライバルに差をつけるには記述問題で解答に必要な要素を漏らさないことがポイント。模範解答と自分の答えを見比べて、過不足を確認することが大切です。

丸つけの仕方

答えのポイントは次のとおりだよ。自分の書いた答えの中に、次のポイントが書かれていたら、となりに線を引いて印をつけておこう。すべて書けていたら○だよ。

「市民に対して」を書けた。
↓「住民に対して」などとしてもいいよ。

大切 「地域の防災上の問題点を知らせる」を書けた。

大切 「危険を周知する」を書けた。

文末を「～ため。」にできた。